

鹿児島国際大学社会福祉学会誌

ゆうかり



第23号

鹿児島国際大学社会福祉学会編集

目次

1	巻頭言	「ゆうかり」第23号によせて 社会福祉学会 会長 林 岳宏	P 1
2	特集	あなたにとって大学での学びとは —わたしが福祉を学ぶ意味— 学生（3年生委員）	P 2
3	特集	キャンパスのここが好き！ 学生（1年生委員）	P 5
4	特集	実習の強い味方★実習支援課！ 学習支援課 +（岩崎）	P 6
5	特集	社会で輝く☆卒業生 MBC 南日本タレント・レポーター 川原田優華さん（2018年度卒）	P10
6	追悼	野田隆峰先生のお別れの会を開催 精神保健福祉士コース同門会 会長 新門 由貴	P14
7	社会福祉学科の取り組み		
	・大学生体験	林・茶屋道・齋藤・大山	P16
	・新入生ゼミナール	永富ほか	P17
	・社会福祉士国家試験受験対策講座	川崎・大山・山下・有村	P18
	・演習論文報告会	上田・齋藤	P19
	・特別支援委員会（学生支援委員会）	永富ほか	P20
8	社会福祉学科トピックス		
	1 ソーシャルワーク実習	川崎・大山・山下・有村	P21
	2 精神保健福祉士課程	茶屋道・林	P24
	3 介護福祉士課程	岩崎・上田・齋藤	P27
	4 教職課程（特別支援）	松元・古賀・永富	P31
9	自主研究助成による研究報告		
	1 活動報告（テーマ・内容）	茶屋道ゼミ 3年生	P35
	2 研究報告（テーマ・内容）	村尾（大学院生）	P39
10		鹿児島国際大学社会福祉学会会則	P42
11		2023年度 鹿児島国際大学社会福祉学会・収支決算報告	P44

編集後記

2023年度 鹿児島国際大学社会福祉学会 運営委員

はじまるよ〜♪



『ゆうかり』第23号に寄せて

社会福祉学会会長 林 岳宏

ここに、「ゆうかり」第23号が完成しました。まずは、この「ゆうかり」を最初に手に取られるであろう、今年度の卒業生の皆さんにお祝いを述べたいと思います。ご卒業おめでとうございます。コロナ禍で入学してすぐにオンライン対応が始まるなど、皆さんの大学生活は、それまで先輩方が過ごしたそれとはかなり異なるものでした。新型コロナウイルス感染症が5類に移行することで、卒業前にはコロナ禍前に近いものに戻りつつあるとはいえ、大学生活の多くで制限がありました。そのなかで、実習や演習論文、就職活動や国家試験などに取り組み、卒業を迎えられた皆さんは、本当に立派だと思います。卒業後も、さらに前進されることを心からお祈りしております。この「ゆうかり」を見て、学生生活を振り返ることが、皆さんの前進の一助となることを祈念いたします。

さて、今回の「ゆうかり」は、特集ページを始めとして、様々な企画が盛り込まれています。特に、特集ページでは、「あなたにとって大学の学びとは—わたしが福祉を学ぶ意味—」と題して、学生の皆さんが担当してくれています。今、時代の変化と共に、福祉のスペシャリストに対して、様々な方面から大きな期待が寄せられています。特に、高齢化と共に、「地域でどのように支えていくか」がより重要な課題となっており、今後も状況はめまぐるしく変化していくことでしょう。私の専門の医療分野でも、医療と福祉がより緊密に連携していくことが、様々な機会でも強調されています。社会福祉学科で福祉を学ぶ学生の皆さんが、学ぶ意味について再考することは、大変意義深いものです。読んでいただきながら、それぞれが学ぶ意味について考える機会となれば幸いです。

また、資格や実習のページとは別に、実習支援課を取り上げたページもあります。社会福祉学科は、全員が社会福祉士国家試験受験資格を得られるよう、カリキュラムが組まれています。そのため、全員がソーシャルワーク実習を行うこととなるため、実習支援課の皆さんは他の実習の準備を含め、毎年膨大な量の業務をこなしておられます。さらには、近年ではカリキュラムの変更などへの対応など、数年にわたる作業もありました。常に着実に業務をこなされる姿勢には、本当に頭が下がる思いです。教員は、実習支援課の皆さんと密に連携することで、様々な実習の指導をよりスムーズに行うことができます。これを機会に、学生の皆さんは実習を振り返ったり、またはこれから始まる実習を想像してみたりしながら、学生生活をより豊かなものにして欲しいと思います。

他にも、学科の取り組みや自主研究助成を受けた研究の報告など、この1年間の様々な報告がなされています。本誌が、会員の皆さんの活動の発展につながることに、さらにはそれが地域貢献に寄与することを期待したいと思います。

長年に渡り、本学科の発展にご尽力されると共に、地域の精神医療を支えてこられた野田隆峰先生が、令和5年4月12日にご逝去されました。享年73歳でした。本誌では、野田先生を偲ぶ原稿を、同門会会長の新門由貴様から頂戴しております。私もこの場をお借りして、野田隆峰先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

最後になりましたが、第23号の編集に尽力していただいた岩崎先生をはじめとした運営委員の先生方や学生編集委員の学生の皆さん、執筆者の方々に深く感謝いたします。

【特集】あなたにとって大学での学びとは — わたしが福祉を学ぶ意味 —

社会福祉学会「ゆうかり」担当学生委員（3年生）

★私が福祉を学ぶ意味は、両親と叔母が福祉職で働いており、仕事の話をよくしてくれました。このことがきっかけになり、自分もいつしか3人のように人の役に立つ仕事をしたいと考えるようになったからです。このように幼いころから福祉関係に興味があり、大学に進学する際は、福祉について学べる大学へ行きたいと思っていました。しかし、福祉について学びたい、福祉職に就きたいと考えていても、具体的にどのような内容で、どのような職種であるかなど知りませんでした。そのため、私は鹿児島国際大学に入学し、福祉とは何かについて学ぶことにしました。現在は介護福祉士課程を選択し、社会福祉士と介護福祉士のダブル取得を目指して、日々勉学に励んでいます。そして、大学卒業後は福祉の現場で働き、クライアントにより良い支援ができるようになりたいと思っています。（甘いもの大好きマン）



※顔写真 NG のため代わりに 11 月に「かごしま青少年海外研修事業」で、訪問した香港のスイーツを掲載します。

★私が大学で福祉を学ぶ意味は、医療と福祉の両方を学びたいと考えていたからです。福祉を学んでいると福祉は奥深い分野であると思うようになりました。（20代女性）

★私が福祉を学ぶ理由は、祖母が祖父を介護していて、老老介護になっていた時期に、介護や福祉サービスについて興味を持ったことです。

大学で福祉を学んでいくとどんどん新しい考え方が出てきてとても面白いです！これからもたくさん勉強して、福祉のスペシャリストになりたいです！！（かつどん）

★私は社会福祉学科で児童福祉について学びたいと思い福祉を学んでいます。特に特別支援に興味があり、今は教職課程で特別支援について学んでいます。特別支援の学習では、知的障害を中心に学んでいます。将来は、障害のある子どもと関われる仕事に就きたいと思っています。特別支援以外でも、他に福祉の科目では地域福祉や、障害者福祉などを学ぶことが

でき、将来の職業の幅が広まっている気がします。これからも障害を中心にした福祉について学びたいと思います。以上が、私が福祉を学ぶ理由です。(愛)

★私は人の役に立つ仕事がしたいと考えていました。そのきっかけは、私は祖父母と同居しており、また、近所の高齢者の方々と接することも多くありました。接していくうちに、徐々に高齢者の方と接することが好きになっていき、将来は福祉職に就きたいと考えるようになりました。私は老人ホームで実習をさせていただいた経験があります。実習を通して、利用者の方に「ありがとう」と言われると、とても嬉しく感じて、さらに福祉業界に就きたいという気持ちが高まりました。(エビ)



※顔写真は掲載 NG のため、代わりに実家の猫ちゃんを掲載します。

★私が福祉を学ぶ理由は、2つあります。

1つ目は、高齢者、子ども、障がい者など、全ての人々が自分らしく生きようとするための知識や技術を身に付けたいと思ったからです。

2つ目は、私の父は特別支援学校の教員です。その影響もあり、私も将来、特別支援学校の教員になりたいからです。

そのため、毎日勉強に励み、社会福祉士と教員免許のダブル取得を目指しています。

(A.R)

※顔写真NGのため代わりに飼っている猫を掲載します。



★私が福祉を学ぶ意味は2つあります。

1つ目は、すべての人が安心して幸せに暮らせる社会を作るための役に立ちたいと思ったからです。

2つ目は、特別支援学校の教師になりたいからです。

この意味を達成するために、鹿児島国際大学の社会福祉学科に入学し、社会福祉士と教員免許のダブル取得を目指して、日々勉学に励んでいます。(N.M)

★私が福祉を選ぶ理由は、2つあります。

1つ目は、群馬にいる祖父母の介護をするためです。私は、生まれた時から、高校まで年に一回、群馬の祖父母に会いに行っていました。その時、祖父母がとても可愛がってくれました。その祖父母への恩返し、支えになりたいくて、私は今、福祉を学んでいます。

また、福祉を教えて下さる先生は皆様優しく、生徒に親身に寄り添って頂けるのもこの学校で福祉を学ぶ魅力の一つだと思います。

2つ目は、母と叔母が福祉、医療の仕事をしているからです。母と祖母の、人を思い、気遣う優しさにとっても憧れ、この仕事の分野を学ぼうと思いました。

そして実際、実習先で利用者様から笑顔でお礼の言葉を返して頂いた時、福祉ってやりがいがあって、魅力的だなと感じました。この体験から、将来、利用者様にとっての一番の幸せを考えながら、利用者様が明るく元気に日常を過ごせるよう全力を注ぎ、誰よりも利用者様の幸せに向けて実行、実現できる介護福祉士になりたいと思っています。(K.A)

★私が福祉を学ぶ意味は、自身が中学生の時、祖父の認知症をきっかけとした家庭の課題解決にあたり、福祉に関する制度やサービスについて知識を持つことが大切だと実感したことにあります。これを機に、福祉のエキスパートと言える社会福祉士の資格取得を志すようになりました。

現在は大学での学びを通し、地域の福祉資源の存在や福祉の幅広さを知り、視野を広げています。過去の経験から当初は固定されていた福祉＝高齢者のイメージにも幅が広がり、子どもや障害者といった分野などについても知見が得られました。

支援を必要とするあらゆる方々がよりよい生活を送れるよう専門知識を身につけ、活かし、役立てる社会福祉士を目指していきたいです。(3年 Y.Y)

★私が福祉を学ぶ意味は、障害のある子どもたちとの関わり方を学ぶためです。中学生の時、身内のダウン症の男の子と会う機会が多く、一緒に遊ぼうとコミュニケーションを図りましたが、私の言っていることがなかなか伝わらず、遊ぶことが出来ませんでした。このことがきっかけでダウン症やその他の障害に興味・関心を持つようになりました。その子にとってどのような関わり方が良いのか、自分にできることは何なのか、もっと詳しく、より専門的に学びたいという思いで、鹿児島国際大学に入学しました。大学の講義やソーシャルワーク実習などを通して、障害のある方への関わり方やコミュニケーション技法などを学び、現在は社会福祉士の資格取得に向けて日々の勉強に励んでいます。そして大学卒業後は、福祉施設で、今まで学んできたことを実践現場で活かしてクライアントに寄り添った支援が出来るような社会福祉士になりたいです。(3年 K.R)



キャンパスのここが好き！

社会福祉学会「ゆうかり」担当学生委員（1年生）

入学して早一年近くたち、この坂之上キャンパスにも慣れてきました。そんなキャンパスの中で僕たちが好きなスポットをご紹介します。

① カフェが充実している

7号館前に構えるこの「森の Gayacafé」は、お昼時に行列ができるほどの人気店で、お弁当だけでなく、ホットドックやサンドイッチ、ケーキなど豊富なメニューが存在しています。

また、本店が坂之上駅付近、線路沿いにある「自家焙煎ガヤコーヒー」であるため、美味しいコーヒーはもちろん、ホットドリンクも楽しむことができます。

一日の授業コマの中で眠たいとされる3限、4限の前に美味しいコーヒーを一杯飲むことによって、大事な講義を集中して受講することが出来るでしょう！

（1年4組13番：前畑音弥）

② 緑視率が高い

2号館から7号館にかけての道は、非常に緑視率が高く、夏から冬にかけて葉の色が変化し、姿を変えて色々な表情を見せてくれます。緑視率が高いことで人間は安心感を覚えるとされています。夏の青々とした枝葉は言うまでもなく、山吹色の銀杏が目飛び込んできます。この道を通る際に、私たちは様々な自然に触れながら新たな発見と共に充実した学生生活を送ることが出来ています。（1年5組13番 右田希翔）

③ 猫がいる

あなたは猫をお好きですか？

私は大好きです。実家に猫を3匹飼っており、家族の中の序列では、私より高いと感じたこともあります。

大学に入学して一人暮らしをはじめ、愛猫たちともなかなか会えなくなり少し気分が落ち込んでいるときに、学生駐車場から上る階段で3匹の猫を見つけました。その猫たちは人馴れしているのか、講義に向かう学生たちの波に対し微動だにせず、じっと座っていました。私はすぐにスマートフォンのカメラを起動し、接触を試みましたが、カメラを向けた瞬間に刹那の如く逃げられてしまいました。それ以降階段を使う際は、猫を気にするようになりま

した。そしてある日、ついに一匹の猫をカメラに収めることが出来ました。その日は疲れており、猫を見ても正直無視しようと思っていましたが、その猫は近くを通っても逃げず、珍しく思い写真を撮りました。その時は何も思わなかったのですが、当時の私の疲労がその猫の波長とうまく合致したのではないかと思います。あの猫に会うため、毎朝楽しみです。

(1年4組13番：前畑音弥)



実習の強い味方★実習支援課！

社会福祉学科の学生さんが、資格を取得し、卒業するまでに必ずお世話になる実習支援課！大変そうな実習を支援してくれる部署ですから、学生みなさんに詳しくお知らせしなければなるまい！というわけで、今回は、実習支援課にスポットライトを当ててみました。



☆学生さんにインタビュー！

<実習支援課はどんなところだと思いますか？>

- * 実習に必要な書類の書き方の説明や事務的な手続きを行ってくれるところ。
 - * 実習に必要な提出物の期限を守らなかったとき、叱られたが、それは愛のムチ！
 - * 単位を落とした時に、履修指導をしていただいたことがある。
 - * 実習中に落ち込んだ時に話を聞いてもらった。
 - * 進路を変更しようと思った時に、相談にのってもらった。
 - * 僕の認識では、元気をもらいに行くところ。
 - * 分からないことは、実習支援課に聞くと教えてくれる。
 - * 資格や免許に関わる事務的なことをすべて行ってくれるところ。
 - * 実習や履修のことで困ったときに話を聞いてもらい、丁寧に指導してくださり助かった。
 - * 大学を辞めるか悩んでいた時に相談に乗ってもらった。そのおかげで、学生をしています。
 - * 学生の立場に立ってアドバイスをしてくれるので、相談しやすい。
 - * 冗談が通じる職員さんがいる。
- など

☆社会福祉学科の学生がお世話になる実習について

実習支援課は、以下の実習がスムーズに行えるよう支援してくださっています。学生の指導に加え、実習先とのやり取りや実習配置の調整、実習前後の協議会や実習指導者懇談会の準備等も実習支援課が行っています。

	実習時期	ソーシャルワーク実習	精神保健福祉援助実習	介護実習		実習時期	教育実習
1年次	夏休み(8～9月)						
	春休み(2～3月)			○(2週間)			
2年次	夏休み(8～9月)			○(4週間)			
	春休み(2～3月)	○(1週間)					
3年次	夏休み(8～9月)	○(5週間)					
	春休み(2～3月)						
4年次	6月		○(2週間)			4年次	前期 教育実習 (3週間)
	夏休み(8～9月)		○(4週間)	○(5週間)	夏休み (9月頃) 特別支援実習 (2週間)		
	春休み(2～3月)						

その他にも、非常勤講師の先生方の対応や授業で使用する消耗品なども準備してくださっています。私たちに見えないところでも。

☆実習支援課の職員の方から学生のみなさんへ

学生の皆さん、こんにちは！！いつも元気な「実習支援課」です！

私たち実習支援課は、教職課程及び資格課程(社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士等)の履修・実習に関することを「業務」としており、それぞれの資格・免許取得を支え・後押しするメンバー6人の部署です。今回、このような機会をいただきましたので、実習支援課から学生の皆さんへ、以下に「私たちの強い思い」三つをお伝えさせていただきます。

①「頑張る人」を支援したい！

私たちの課は、実習前の準備や実習中の支援をしています。しかし、「支援課」といっても全てを何とかすることはできません。提出物がいつも遅れている、説明を聞かずに不備ばかりの書類を提出している学生を何とかしてあげてしまつては、実習中や卒業後に社会に出たときに困ることになります。私たちは、「これから実習を頑張る学生」・「実習を頑張っている学生」を後押ししたいと考えています。はじめは分からないことがたくさんあり、実習に不安を感じたりすることもあると思います。そんな時は、まずは自分で考えて、時には悩んで、そして自分なりの考えを準備して実習支援課に相談してみてください。

②先生たちと共に！

皆さんもご存じのとおり、社会福祉学科で行う実習は、どれも期間が長くたいへんです。実習が終わっても国家試験や採用試験があり、忙しさは継続すると思います。そんな時、皆さん

が一番頼りにするのは、それぞれの資格・免許取得課程の先生方だと思います。どの先生も優しく、頼りになる先生方ばかりです。親身になってくださる先生方を「信じて」日々を過ごしてみてください(もちろん、先生方への「感謝」も決して忘れずに・・・)。

また、「先生には言いづらい」「どの先生に相談すればいいのかわからない」こともあるかと思いますが、その時は、迷わず実習支援課に相談してください！

③ 免許・資格取得に向けて！

社会福祉学科には、教員免許、社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格、介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指す学生が多くいると思います。講義や実習で大変なこともあるかと思いますが、社会福祉学科に入学した皆さんには、ぜひ、教員免許や国家試験受験資格を取得して卒業してほしいと思います。それが、皆さんを送り出してくださった保護者の願いでもあります。大学で学んだことは、きっと将来皆さんの力になります。一緒に頑張っていきましょう！

以上、社会福祉学科担当のメンバー2人が、かねてから感じている切なる「願い」です。

実習支援課は、援助課でも準備課でもありません。いつも学生の皆さんに対して、本当に「支援」できているのか、そしてそれが本当の「支援」なのかを見極めながら業務を進めています。

多くの学生さんたちが、実習を経て、よりたくましく、いい表情になって窓口を訪れてくれることが何よりの喜びです。今回、先生方からスポットを当てていただいたこと、そして皆さんがインタビューで答えてくれたことは、大いに励みとなりました。これからも、基本的には優しく、しかし時に厳しく、社会に送り出す直前の「いい大人」の仲間になってもらえるよう「支援」を続けていきます。



社会で輝く☆卒業生



MBC南日本 タレント・レポーター
川原田 優華さん (2018 年度卒)

こんにちは。私の名前は川原田優華です。

鹿屋出身の 27 歳です。第一鹿屋中学校、鹿屋女子高校、そして、2019 年の 4 月に鹿児島国際大学福祉社会学部社会福祉学科の介護福祉コース（現：介護福祉士課程）を卒業しました。

現在は、MBC 南日本放送でタレント活動をしなが、週に 2 回、在宅福祉の現場で働いており、ケアマネジャーの資格を取得しようと考えています。

そんな私の経歴をお話いたしますので、ページはそのままご覧ください。

★社会福祉学科へ入学をしようと思ったきっかけ



私は小学生まで祖父と祖母と一緒に住んでいました。少し気難しそうな祖父が、孫の乗ったベビーカーを押して、買い物に嬉しそうに行く姿が近所でも話題になるほど、愛を受けて育ちました。祖母は、わがママをいつも聞いてくれて今思うと感謝しかありません。そんな祖父の糖尿病が悪化し、小学校 2 年生の頃に倒れ、入退院を繰り返すようになりました。そこで、祖母が一生懸命に介護を行う様子、地域のケアマネジャーさんや介護や看護に携わる皆さんや福祉用具を設置する皆さんの様子を見て、自然と「福祉」は身近にあるもので素晴らしい仕事だと感じるようになりました。また、実家から車で 40 分離れた場所には、曾祖母と曾祖父が住んでおり、

当時は、農作業ができるほど元気で、曾祖母と曾祖父に会うのも小さいころからの楽しみでした。また、自宅の近くに児童養護施設があり、施設で暮らす友人がたくさんいました。友人は、本当はつらい思いをたくさんしながら過ごしていたはずなのに、そんな顔一つせずに遊んでくれていました。そんな友人が一言だけ、「家族っていいな」と、気持ちを打ち明けてくれることができました。こうした「相談しやすい」人になるにはどうすればよいのだろうと考えることが多くありました。このような思いから、社会福祉学科を選びました。

★4年間の学校生活について

大学に入り、介護福祉コース（介護福祉士課程）を選択しました。1、2年生の頃は、よさこいサークルに入魂しすぎて、授業でうとうととしてしまう日も少なくありませんでしたが、同じ道を目指す仲間を支えられ、毎日頑張っていました。3、4年生になると、周りが進路を固めていく中で、焦りながらも学生の頃しか味わえないことを楽しもうと充実した日々を過ごしていました。今考えると、もう少し勉強に励んだらよかったなと思うこともありますが・・・(笑) 時間よ、もう一度戻れ！と思うほど楽しかったです。

また、一番大切にしていたことは「人とのお出会い」です。大学には、社会人になってからはお会いすることのできない先生方や外部講師の方がたくさんいらっしゃいます。手作りの名刺を持って、興味を持った先生に積極的に話を聞きにいきました。おかげで、自分が持っている考えや概念をたくさん知ることができ、今でも大切な財産です。

★学業について

一番印象に残っているのは、訪問介護の実習です。難病で気持ちが落ち込み、家からほとんど出ることのなかった利用者様と、日々、コミュニケーションをとる機会がありました。

そのうちに、「外出してみようかね。」と久々にデイサービスに行くきっかけになったと聞いたときに、誰かの明日を作ることができるんだなと感じて、とてもうれしかったです。

★MBCタレント・レポーターになろうと思ったきっかけ

タレントになるのが、小さいころからの夢でした。小学1年生の頃にはサン宝石というネットショップで買った小さい瓶に「タレントになる」と書いて持ち歩いていました。たくさんの人たちに「なれるわけない」と言われながらも、中学生高校生と、思いは変わらず大人になってしまいました。鹿児島県の観光案内のアルバイトや、薩摩剣士隼人に出会い、鹿児島に魅了され、鹿児島が好きになり、鹿児島のタレントになりたいと思っていたところ、ポニーメイツというキャスタードライバーのオーディションがありました。なんと！晴れて合格！！2年間、ラジオの中継を、毎朝4時5時に起きて行っていました。その後、MBCの放送局にてタレントとして活動を続けています。

★担当番組

テレビ：たわわのわ （毎週日曜 午前11時40分～）

ラジオ：平和の花束 （毎週木曜 午後12時55分～）

ふくしのラジオ（毎週木曜 午後13時00分～）

そのほかにも、中継に出たり番組でお話したり、講演会やイベントの司会なども行っています。

★ふくしのラジオについて

社会福祉学科の私にとって「ふくしのラジオ」は、叶えたい夢の1つでした。きっかけは、大学4年生の頃、介護老人保健施設での実習です。ラジオが好きな利用者様が多く、ポケットラジオを握りしめながらベッドや車いすでラジオを聴いていました。ラジオの声に季節を感じ、そしてパーソナリティの身近な声に元気ももらっていると話されていました。



また、地方の曾祖母と曾祖父は肝付町に住んでおり、なかなか地方には、福祉の施設や情報が行き届かない、知らない現状があるということも知りました。そこで私は、「ふくしとラジオは必ず繋がる。自分にしかできない福祉の発信をしよう!」と、ふくしのラジオをいつか立ち上げることを目標に、タレント活動を行っていました。

そんな中、一昨年の秋に、「新番組グランプリ」という企画が行われることになりました。優勝した番組はレギュラー放送・または特別番組になるかもしれない!という、なかなかないチャンスなので、チャンスをどう掴むのかを必死で考え、企画書からすべて自分で作りました。

結果は見事、優勝! 昨年の4月に番組がスタートしました。こんなに早く夢が叶うと思っていなかったので、たくさんのかたに支えていただいているんだと大きく実感しました。

これからも、福祉の情報や元気なおじいちゃんおばあちゃんなど、福祉を身近に感じられるラジオを目指して頑張ります! ふくしのラジオは、Podcast や Spotify でも聴くことができますので、ぜひ聴いてくださったらうれしいです。

★仕事で大変なこと

かっこよく言うと、タレントと福祉の仕事の二刀流ですが、タレント活動でも週に5回働くことがほとんどなので、福祉の仕事が週2日…時間が足りない! というのが本当に悩みです。

一つひとつの取材や中継の下調べは、より深いインタビューをするのに必須です。全力で取り組みたいので、1日が28時間程になってくれたらな…と思うばかりです。



★仕事のやりがい

やりがいはたくさんあります。ポニーメイツから数えると5年間でおよそ2000人以上はインタビューをさせていただいているので、たくさんの人間ドラマを見させていただいています。放送したあとに、「聞いていたよ!」とか、「放送を聞いて出かけてみました!」などといったたくさんの方の言葉や手紙が一番の頑張れる理由です。

また、ラジオは声のアルバムだと思っているので、取材先の方に、「今でも聞き返します。」や「あの日を忘れられません」などの言葉をいただいた時も、思い出の1日をつくること

ができたんだなと思い、嬉しく思います。

また、たわわのわでは、農家さんとお会いする中で、鹿児島県産の野菜や果物が、農家さんの絶えまぬ努力と細かな気配りで大切に育てられていることもわかりました。天気予報を見ると水不足とか霜とか大丈夫かな？と、農家さんのことを考えますし、鹿児島県産の食材がこんなにも豊富だということを知ることができました。おいしく食べようといろいろな調理方法を調べるようにもなりました。

★将来、どんなレポーター・タレントになりたい？

“思わず、深い話をしてしまう”、“一緒に喋っていたらあっという間に時間が過ぎる”そんなタレントになりたいと思います。福祉を学ぶと、傾聴やうなずきなどレポーターとしても必要な知識が身につき、逆にレポーターをしていることで、利用者様の本音を引き出すきっかけになったり、福祉の世界とラジオの世界は、想像以上につながりを感じる部分が多くあります。

★最後に

福祉関係の仕事も魅力的で、進路を決める際はとても悩みました。そんな中、諦めきれなかった「タレント」という夢を最後まで応援してくれたのは社会福祉学科の先生方でした。

先生方は、福祉の資格はいずれどんな道にも役に立つ！とおっしゃっていた意味が今になってよくわかります。

これからますます必要となる「福祉」関連の資格を取得することは、本当に叶えたい夢がある人にとって最強の武器になると思うんです。福祉の心を持っている人は優しくてどんな仕事でも人に温かく、人に尽くせる人ばかりだと思っています。社会福祉学科で学んでいることを誇りに、資格取得に励んで、夢や目標に向かって頑張ってください。応援しています！



野田隆峰先生のお別れの会を開催

鹿児島国際大学精神保健福祉士コース同門会

会長 新門 由貴



令和5年7月30日（日）に城山ホテル鹿児島にて、鹿児島国際大学元教授であり、精神保健福祉士コース同門会の特別会員である野田隆峰先生のお別れの会が開催されました。同門生や鹿児島国際大学社会福祉学科の先生方、野田先生と交友のあった方々が93名参加されました。

野田先生は、当コース発足から21年間、精神保健福祉士の養成にご尽力されました。今回、野田先生が遺してくださった精神保健福祉士へのメッセージをお別れの会で共有したくてこの会を開催させていただきました。

当日は、野田先生の写真など思い出をまとめたメモリアルコーナーを設置し、皆さん、写真を見ながら懐かしそうに思い出を語り合っていました。その後、野田先生の最終講義のスライドと動画を視聴し、皆さん、野田先生の講義を大学時代に戻ったように真剣に視聴されていました。



スライドは、【PSW養成に対する私の教育観】～コース学生・同門会員と21年間をともに歩んできて～というテーマで野田先生の教育観、関わり方の着目点についてまとめられており、野田先生が福祉系教員として鹿児島国際大学に赴任された際の様子や心情に触れることができました。野田先生は、大学教育の使命として、教育・研究の先に社会への還元、そしてそれが豊かな社会に繋がっていくと考えておられたことを知り、私たち精神保健福祉士に求められている役割を再確認することができました。

また、野田先生が大学での講義の際に雰囲気づくりを大切にされていたと知り、大学時代の講義の雰囲気を思い出し、和気あいあいと臨床現場での体験を交えてお話してくださったことを懐かしく思いました。当事者への視点についてのお話では、当事者を病者化（患者化）

しない、人対人（対等）の視点で寄り添っていく姿勢を示してくださいました。

同門会についてのお話もあり、卒後教育の場として野田先生が発足された同門会は、学びの場でもあるとともに、同門生と交友を深めることで癒しや活力を得られる場になっています。このような会を発足されたのは、野田先生の教え子を卒後も支えたいという気持ちからだったのではないかと思います。

最後に、野田先生とともに鹿児島国際大学にて精神保健福祉士コースを担当された赤星香世子先生、岡田洋一先生からお別れの言葉があり、野田先生との思い出をお話くださいました。お話の中で野田先生の人柄に触れ、暖かい気持ちになるとともに寂しさも感じました。

私が心に残っている野田先生とのエピソードとして、私が困難にぶつかっているときに、「ゆっくり亀のように一步一步進んでいけばいい」とユーモアを交えて励ましていただきました。そのことばが今でも時々思い出され、業務や私生活でスムーズに事が進まないときは、「ゆっくり一步一步」と自分に言い聞かせ、一息ついて取り組むことができます。

今回のお別れの会は、野田先生の生前の姿を偲ぶとともに先生の精神保健福祉への熱意、先生がライフワークとされていた人間学に触れる貴重な機会であり、参加された皆さんは精神保健福祉士としての視点、支援のあり方について振り返る機会になったのではないかと感じました。野田先生が遺してくださったことばを大切に、それぞれの現場でいかしていけたらと思います。



野田隆峰先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

2023 年度 社会福祉学科 大学生体験 について

林 岳宏・齋藤 代彦・茶屋道 拓哉・大山 朝子

社会福祉学科では、2018 年より、学科企画行事として主に高校生を対象とした「一日大学生体験」を開催しています。2023 年は、4 年ぶりとなる対面企画のイベントとして「社会福祉学科 大学生体験」を開催しました。本企画ではオープンキャンパスとの差異化を図るため、内容を「ゼミ体験」と「プレゼンテーション参加」としました。なお、開催日が入試の出願期間内であり、対象は高校 1・2 年生となりました。申込みは、入試・広報課の全面的なご協力のもと、大学のホームページの申込みフォームから申し込んでいただく方法としました。

当日の開催概要は以下の通りです。

日 時：2023 年 11 月 3 日（金）13:00～16:10

場 所：図書館 4 階 視聴覚ホール、社会福祉学科「演習 II」各教室

時 間	内 容	担 当
13:00～	1 全体説明 開会の挨拶、本日のスケジュールについて 2 参加ゼミ教室へ移動	1 林岳宏（教員） 2 教員・ゼミ在学生引率
13:10～ 14:30	【第 1 部】ゼミ参加	古賀ゼミ（714 教室） 有村ゼミ（コモサカ）
14:30～	プレゼンテーション会場（視聴覚ホール）へ移動	教員・ゼミ在学生引率
14:40～ 16:00	1 社会福祉士（ソーシャルワーク）実習報告 1 2 社会福祉士（ソーシャルワーク）実習報告 2 3 精神保健福祉士実習報告・課程説明 4 教職課程説明 5 介護福祉士課程説明（教員）	司会：林ゼミ 3 年生 報告学生： 1 地頭所 玲音（3 年） 川崎ゼミ 2 松久保華乃（3 年） 有村ゼミ 3 末田 百華（4 年） 林ゼミ 4 古川 純麗（3 年） 松元ゼミ 5 齋藤 代彦（教員）
16:00～ 16:10	まとめと振り返り	
16:10	終了	

参加者の中には、遠方から来られた方もいて、企画終了後も会場で先生方に質問されるなど、本学科の取り組みに興味を持っていただく貴重な機会となりました。また、プレゼンテーションの際には発表者以外のゼミ学生も多く参加し、報告会としても良い機会となったと思います。最後になりましたが、開催にあたり、ご協力いただいた学生・教員の皆様や、入試・広報課をはじめとした事務職員の皆様に深く感謝申し上げます。

新入生ゼミナールのとりくみ：レクリエーション

新入生ゼミナール担当 永富 大輔

新入生ゼミナールでは、大学1年生が大学生活に関することやレポートの書き方、プレゼンテーションの方法について学びます。また、学生同士や教員との交流を深め、絆を深める活動が行われています。特に、大学生は様々な地域から集まり、県外から入学した学生、一人暮らしを始めた学生も多いです。また高校生活までとは大きく異なる大学生活に、戸惑いを感じることも多くあります。新入生ゼミナールは、大学生活へのスムーズな移行をサポートし、大学生活が充実したものになるように、クラス単位で様々な活動に取り組んだり、学科全体で集まってイベントを行ったりしています。

また、新入生ゼミナールの活動を支えてくれるのが、SA（スチューデント・アシスタント）の存在です。SAとは、新入生ゼミナールの活動を支えたり、企画・運営をしたりする同じ学科の先輩です。1年生にとっては、他学年と関わる機会が少なく、大学生活での疑問点について、誰に聞いたら良いか悩むこともあると思います。また、大学の先生や事務室に聞くのも勇気がいることです。SAは全ての新入生ゼミナールの授業に参加して、1年生とたくさん関わり、1年生にとって頼りになる先輩となっています。

SAが企画・運営したイベントの1つとして、レクリエーションがあります。今年度、レクリエーションは2回行われました。第1回目は、ボッチャを行いました。このスポーツは、ボッチャボールと呼ばれる青色と赤色のボール、ジャックと呼ばれる白色のボールを使います。プレイヤーは交代でボッチャボールを投げ、自分のボールをジャックに近づけたり、相手の色のボッチャボールを遠ざけたりします。最終的に、ジャックに一番近い色のボールを持つチームがポイントを獲得します。ルールは簡単ですが、戦略を考え、正確にボールを投げる技術が必要です。第2回目は、風船バレーを行いました。風船を用いることで、多くの学生が触ることができ、安全に行うことができました。どちらのイベントも、クラス内で声をかけあったり、歓声があがったりするなど非常に盛り上がりました。これらのイベントを通して、友だちとのつながりが強くなったり、新たな友だちと関わるきっかけになったりしたと思います。

新入生ゼミナールは、1年生にとって大学生活に必要な情報や知識・技術を学び、不安や悩みを解消し、仲間関係をつくる貴重な時間です。これからも、学生にとって充実した時間になるよう、いろいろな取り組みを行っていきます。



2023 年度 社会福祉士国家試験受験対策講座

社会福祉士受験対策委員 有村 玲香

2023 年度の本講座は、社会福祉士受験資格取得見込みの社会福祉学科の学生（4 年生・3 年生）を対象として、主に 4 年生が受講した。本講座の目的は、「社会福祉士国家試験に向けて、受験勉強の学習方法や教材の提供、模試を通した実践的学習の環境を設定する」ことである。

本学においては、4 年生の通年科目である「社会福祉学特論」、教員（非常勤を含む）が受験科目 19 科目を網羅して過去問を通して力を伸ばす授業を実施している。その「社会福祉学特論」と本講座は相補的關係となり、学生の受験勉強の促進を目指している。

実際には、前期は自己学習用の教材の活用やオンライン講座の受講方法等について、5 回の講座を実施した。後期は、日本ソーシャルワーク教育学校連盟と中央法規が実施する全国模試を学内で実施し、さらに、福祉教育カレッジの模試を自宅受験することで、学生は 10 月～12 月にかけて月 1 回の頻度で実践的に試験に挑んだ。

12 月は、受験勉強をする学生にとっては、合否を分けるといっても過言ではない大切な時期を迎えて年末にかけては、福祉教育カレッジが実施する「ラストチェック予想講座」を活用して自宅学習に取り組んだ。

2023 年度社会福祉士国家試験は、旧カリキュラムでの最後の実施となるため、学生が持つ限りない可能性を活かし合格を目指して頂きたい。

2023 年度 社会福祉士受験対策委員会
有村 大山 川崎 山下



「演習論文報告会」の報告

演習論文委員 上田 雪子・齋藤 代彦

社会福祉学科4年生の演習論文報告会をポスター形式で開催しました。

開催期間は、12月8日（金）～16日（土）までの9日間、5号館1階学生ホールにて開催しました。今回は、11本の報告がありました。報告者およびテーマ一覧は、以下のとおりです。

	報告者	テーマ	ゼミ
1	森下 竜成	カラーユニバーサルデザインについてー現状と課題ー	大山ゼミ
2	原田 輝三	老人医療費支給制度の意義と課題 ー制度の変遷と沢内村の取り組みに焦点をあてて	山下ゼミ
3	下津 美月 別府 夏音 古川 純麗	新型コロナウイルス感染症の5類移行は社会へどう変化を与えたか	松元ゼミ
4	池之上友里寧	ヤングケアラーの現状と今後について	古賀ゼミ
5	上村 麗奈	こども食堂の現状と課題 ーコロナ禍との関係ー	
6	濱村 和璃	自閉スペクトラム症のある幼児に対するビデオモデリング手続きを用いた 数字の書字における効果	永富ゼミ
7	稲光 沙羅	鹿児島県と熊本県の自殺対策の比較	林ゼミ
8	鮫島 未来	統合失調症と双極性障害の維持期における薬物療法	
9	上田 果凜	“沼る”に潜む“不健康な依存”への危険 ～アイドル文化の特異性より～	茶屋道 ゼミ
10	横山くらら	隠れた貧困女性の存在と貧困の実態について	
11	兔拂 泰紀 緒方 力輝 吉峯 由真	福祉系大学生におけるストレスが睡眠に及ぼす影響	上田ゼミ

演習論文報告（ポスター形式）は、学生ホールで開催されたこともあり、多くの学生や学生以外の方々が、様々なテーマの演習論文に関心をもち読まれていたと思います。

演習論文は、4年間の集大成として取り組むものになります。「自分で問いをもち答えを出す力」を身につけるためには、指導教員や様々な人と議論していく「専門性を深める仕組み」が重要になります。4年生の皆さんは、2年生の後期に指導教員を決めました。演習において3年生から多くの時間を費やし一つの物事を考え抜いた経験は「自分で問いを持ち答えを出す力」の一歩になったと思います。

社会人になってからも何事にも探求心をもって取り組んで欲しいと思います。

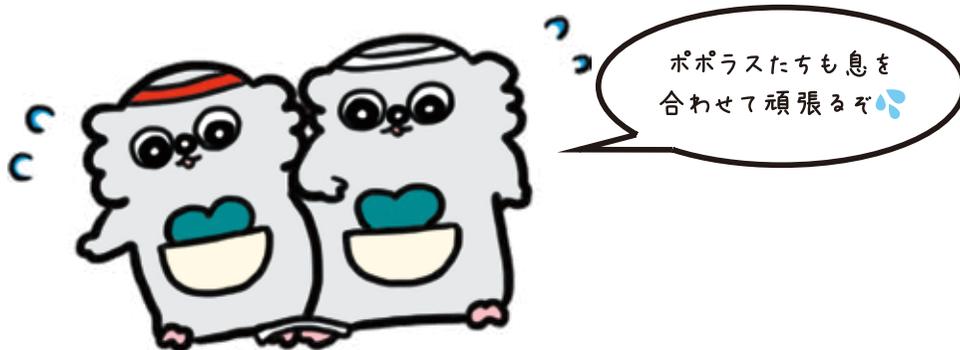
特別支援委員会について

特別支援委員会 永富 大舗

特別支援委員会は、福祉社会学部に設置されている委員会の1つです。社会福祉学科の永富(委員長)、福祉社会学部学部長の岩井先生、社会福祉学科学科長の林先生、児童学科学科長の中村先生の4名で構成されています。特別支援委員会は、教員と職員の連携を強め、学生が履修や実習、人間関係で困っている学生にいち早く気づき、迅速に支援を行うことができるような体制作りを築くことを目的としています。

これまでの活動として、教員や職員との連携を円滑に行っていくための支援シートを作成したり、教員と職員が学生への支援について自由に語ることができる場の“語る会”を設定したり、講演会を開催したりしました。“語る会”では、学生の困りごと、成功した支援方法、現在の課題と解決案について、多く語られます。普段、教員は授業やゼミで学生と関わることが多いですが、それ以外の場での学生生活については職員が関わるが多いです。両者が自由に語ることで、新たな発見や支援に関するアイデアに気づき、実際の学生への支援に結びついています。講演会では、他大学の取り組みを学んだり、専門の先生のアドバイスをを受けたりしています。他大学の取り組みを聞いて、学生にとって良いと思うことは積極的に取り入れることを検討しています。また、専門の先生のアドバイスを受けることで、教員や職員が行っている学生への支援の質が高まったり、新たな支援方法に気づいたりします。

誰もが、周囲の支えを得ながら生活をしています。それは、私たち教員や職員も同様であり、すべての学生が誰かの支えを必要とするときがある可能性があります。これからも特別支援委員会では、福祉社会学部のすべての学生が困ることがなく充実した大学生活を送ることができるように、教員と職員が一丸となって取り組んでいきます。また、困っている学生に少しでも早く気づき、困りごとが解消できるよう、チームとなって取り組んでいきます。



ソーシャルワーク実習 ー学生の感想と教員のコメント

川崎 竜太

社会福祉学科では、社会福祉士国家試験の受験資格取得のために、ソーシャルワーク実習（2年生：ソーシャルワーク実習Ⅰ、3年生：ソーシャルワーク実習Ⅱ）を行います。今年度の実習について、分野ごとに学生の皆さんからの感想や担当教員のコメントをいただきました。

高齢者分野 川崎竜太先生担当：西 桐邑

私は、特別養護老人ホームにじの郷たにやまで実習を行いました。実習では、実習機関が展開している幅広い事業所の役割や利用者とのコミュニケーション、多職種連携について学びました。利用者とのコミュニケーションでは、会話の切り出し方や展開が分からないことも多かったですが、職員の方の話し方やかわり方を観察することで少しずつ会話を始めるときの流れや話題などを上手く捉えることができました。

事例研究では、実際にケアプランを作成させていただき、アセスメントの取り方、ニーズの把握、他職種とのやりとりなど多くのことを経験することができました。アセスメントは利用者のニーズの捉え方について学ぶ機会となり、生活のちょっとした困りごとや問題についてはいくつか見つけることができましたが、利用者の本当のニーズを把握することは難しかったです。ケアプランの作成では、利用者のニーズを把握した上で長期目標や短期目標を考えていくため、優先度や見えづらい思いなどを捉えていけるようになりたいと感じました。実際に支援を行う中で、家族や職員といった方々の意見も尊重すべきですが、利用者本人にとって最善な支援は何かを考えていけるように心掛けていきたいと思います。最後に実習指導者をはじめ、施設の職員の皆様からご指導・ご協力をいただいたおかげで、多くの学びを得る実習となりました。お世話になったすべての皆様や利用者の方々に、感謝申し上げます。

こども分野 有村玲香先生担当：森田 虎太郎

私は子ども系のボランティアサークルの主将のため子どもとふれあう機会が多かったり半年間の事前学習をしてきたりしてきたため、かなり自信があり正直子どもとの信頼関係を築くことは容易だと考えていた。

しかし、実際はそう簡単なことではなく、私の思い通りに子どもが行動してくれなかったため悩んだ。もし半年間の事前学習がなかったらもっと思い悩んでしまっていたため事前学習は大切だと思った。

私の強みは、「行動力とリーダーシップ性」である。公文の定例会の準備、社会資源調査に行くためのアポ取りではこの2点が発揮することができたと実感している。逆に弱みは、「様々な場面を予見する能力」だった。この実習を活かしこの能力を上達していき、優れた人間になれるように励んでいきたいと感じる。1ヵ月という長い実習期間で自身の強みや弱み、実践を通して児童養護施設に入所している子どもの家庭状況について理解できた。

障害児者分野 前山聡宏先生担当：上野 実玖

私は、社会福祉法人そてつ会相談支援事業所ともいきで25日間実習をさせていただきました。相談支援事業所では、住み慣れた地域での生活を支援するために、相談対応やサービス利用手続きの手伝い等を行っています。その他にも研修の参加や施設見学（同行）など利用者の生活がより良くなるように情報収集に取り組んでいます。

今回の実習を通して様々な経験と知識を得ることが出来ました。研修に参加させて頂いた際は、自分が住んでいる地域で実際に起こっている問題について知ることが出来ました。また、関係機関同士が顔を合わせてケース報告や相談をお互いに行い、社会資源についての情報共有を行っていました。他機関で連携を図るには広く関係機関とつながりを持ち、ネットワークづくりをすることが大事だと学ぶことが出来ました。

実習指導者の方が実習プログラムを調整してくださったおかげで、児童発達支援センターや就労継続支援事業所、放課後等デイサービス等と多様な施設を見学することが出来ました。各種別の施設概要をより詳しく知ることが出来ました。また、同じ種別の施設でも雰囲気は全く異なっていました。なので、施設概要を支援者がよく理解して、利用者に適切な情報を届けることの大事さを学ぶことが出来ました。

また一人の児童を対象として支援利用計画を作成させていただきました。アセスメントや計画作成、担当者会議を通して本人の意思を尊重することの大切さや計画作成の難しさを感じました。実習指導者の方に何度も話を聞いていただき最後まで頑張ることが出来ました。

これからソーシャルワーク実習に行かれる皆様は不安な気持ちもあると思います。私自身も緊張と不安でいっぱいでした。しかし、実習先ではたくさんの良い出会いが待っています。そして学べることもたくさんあります。皆様の実習が充実し、良い経験となるよう応援しています。

社会福祉協議会 高橋信行先生担当：高橋 信行

今年から新カリキュラムによる実習システムが開始となり、これまでの180時間以上を夏季期間の4週間から5週間で行うスタイルから、実習時間240時間以上を、2月に40時間（5日間）以上、8月以降に200時間以上と2つにわけた実習となり、しかも2カ所以上の実習先を選ぶ形式となった。今回のソーシャルワーク実習Iは、5日間40時間の実習として、標準的には2月6日から10日の間設定されている（一部日程が変更されている）。

社会福祉協議会の実習では、5カ所の実習先に10名の学生が履修しているが、これまでの市町村社会福祉協議会に加え、鹿児島県社会福祉協議会も新規に実習先として、3名の実習生を受け入れていただいた。

事業内容が豊富な社会福祉協議会のなかで、5日間という短い期間に、どの程度理解を深めることができるのか、未知数な部分を含みながらの初めての实習であったが、運用については、思いのほかスムーズに進められたように思う。これまでの実習の中では、職場実習、職種実習、ソーシャルワーク実習という区別がされていた。それで見ると、いわば導入部分の職場実習にあたるものとも言えるが、事業概要だけでなく、利用者に関わるプログラムや、地域住民との交流、専門職間の連携会議等への参加など実習メニューに加えていただいた。

200時間以上夏季実習の実習生は16名であるが、今年は例年以上に、さまざまなトラブルに見舞われながらの実習となった。実習開始当初は台風の影響で、実習を予定どおりに開始できた学生は少なかった。途中も健康上の問題で休まざるを得ない学生もあり、終盤には、実習指導教員の高橋もコロナの影響で、訪問実習をオンラインに切り替えざるを得ず、実習

期間である社会福祉協議会と学生に迷惑をおかけした。

今年度から新カリキュラムに基づいた実習が開始され、事前学習の期間が短縮されたが、実習期間は200時間へと増加し、9月後半の授業開始直前まで、実習を行っていた学生もいた。例年とくらべ20時間のびただけであるが、確かに学生の疲労感を感じるころが多々あった。実習後のアンケートでほとんどの学生が実習を長く感じたと答えていた。半面、これまで1年近く費やすことができた事前学習の期間が半年に短縮され、十分に事前学習のプログラムをこなせなかったという気持ちも残った。実習の全体システムそのものを微調整する必要性も感じたところであった。今年度の学びを来年度以降の実習指導に生かしていきたいと思う。長期間にわたり実習指導に親身にかかわっていただいた社会福祉協議会の指導者の皆様に感謝するとともに、実習ⅠとⅡ履修の学生たちの頑張りをねぎらいたいと思う。

医療分野担当 田中 弘子先生：福 海人

私は今村総合病院に25日間実習に行かせていただきました。MSW（医療ソーシャルワーカー）は「入院してきた患者様を支援する仕事」という漠然としたイメージを持っていたのですが、実際の現場では患者様の退院後の生活や場合によっては最期の看取りまで見据えた支援を行っていました。MSWは、チーム医療として多職種と関わりながら福祉の視点から情報を発信し、他の専門職の所見を取り入れながら患者様が希望されるニーズに応えられるよう退院調整や社会資源活用を行っていく専門職であるということを実感しました。また、実習で患者様の相談援助に同行していく中でクライアントのマイナスな面を補うような支援だけでなく、今後の生活をより豊かにしていけるような支援を行っていくことがMSWの役割であり、本来の福祉専門職としての在り方であるのではないかと考えました。

加えて、実習での患者様とのかかわりの中でソーシャルワーカーとしてのクライアントとの「かかわり方」についても学ぶことができました。病気をもっていることや終末期であること、精神疾患を持っていること等に対して特別に区別することなく先入観を持たずにかかわり、その中で生まれた疑問や感じたことを「膨らませる・広げていく、そして周りに共有していく」この姿勢を持つことが大切であることを実感しました。人とのかかわり方は福祉職にかかわらず様々な社会場で求められるスキルとなるので、今回の実習で学んだ人とのかかわり方を忘れずに今後の大学生活や教育実習、そして社会人となってからも生かしていきたいと思っています。



精神保健福祉士養成課程の取り組み

茶屋道 拓哉・林 岳宏

はじめに

本課程では、精神保健福祉援助実習とその関連科目である精神保健福祉援助実習指導Ⅰ～Ⅲ、精神保健福祉援助演習を連動させて、より深い気付きと学びが得られるような工夫を行っています。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、現場の指導者・関係者の皆様の多大なご協力もあって、コロナ禍前に近い形で現場での実習を行うことができました。ここでは、令和5年度の実習（実習前教育～実習報告会）や課程として取り組んでいる事についてご紹介させていただきます。

1. 実習の流れ

1) 見学実習

本格的な実習に入る前（5～7月）に見学実習として、①鹿児島県精神保健福祉センター、②鹿児島市保健所（鹿児島市保健支援課）、③鹿児島市精神保健福祉交流センター（はーとぱーく）、④鹿児島県立始良病院、⑤谷山病院（関係事業所含む）、⑥松下病院での見学実習を行います。それぞれの見学先に行く前には、事前学習として各機関の持つ役割や特徴、根拠法について学びを深め、当日を迎えます。例年、見学を通じて学生自身の主体的な学びの姿勢が育まれていくように感じています。

2) 事業所実習

6月中旬から、いよいよ本格的な実習が始まります。まずは、障害福祉サービス事業所（相談支援事業所・就労継続支援B型事業所、地域活動支援センターなど）での実習（8日間：64時間）を行います。実習先では地域で精神障害をかかえる方々が、どのように生活を維持し、どのような思いを持っているのかについて、実際にかかわりながら自らのスキルを試し、関係する諸制度（障害者総合支援法など）との関連について学んでいきます。

3) 病院実習

前期試験が終わると、いよいよ8月上旬からは精神科病院での実習（20日間：160時間）です。様々な入院患者や外来通院患者と出会い、語らい、そうした方々の思いや環境から多くの気づきを得、実習指導者の方々と振り返りを行う作業を繰り返します。そのなかで、これまで学んできたソーシャルワーカーとしての価値や倫理、精神保健福祉法の運用や各種社会保障制度、社会資源が実際にどのように活用されているのかを体験します。今年は台風の接近もあり、実習スケジュールに多少の影響もありましたが、実習後半にはケース検討を行いながら精神障害や地域移行について、さらに具体的な学

びと専門職としての自己洞察を深めていきました。

2. 実習報告会

後期に入ると、各学生が持ち寄った実習の経験やケース検討について、全体での振り返りを繰り返していきます。その振り返りの中で本課程がこだわって教育していることは「ソーシャルワーカーである精神保健福祉士らしい振り返り」です。実習経験が率直な感想や体験報告の枠を超え、大学での学びやソーシャルワーク理論、各種法制度や社会情勢との関係にふれることで、個別的なかかわりのミクロの先にある、メゾ・マクロといった鳥瞰的視座を獲得してもらうことを目的としています。



11月11日（土）に開催された実習報告会では大勢の実習指導者や3年生を前に、各学生が行った振り返りをプレゼンテーションしました。オリジナリティのある各実習生の報告がなされます。また、それに対する指導者からのコメントや教員の補足質問に学生が真摯に応えていく姿は「ソーシャルワーカーとしてのスタートラインに立つ準備が整ったこと」を感じさせてくれました。最後に、今年の実習生がすべての実習を終えた時点で語り下ろした学生なりの目指すソーシャルワーカー（精神保健福祉士）像をご紹介します。

- クライアントが思うその人らしい人生と一緒に考えられるソーシャルワーカー（クライアントの立場に立って価値観に寄り添える人 出会うことで人生の可能性や選択できる幅が広がったと思ってもらえる人）
- クライアントの立場に立って考えることができるソーシャルワーカー（クライアントを引っ張っていく支援ではなく横並びで一緒に歩いていく姿勢で）
- 本人様と共に歩める精神保健福祉士になりたい
- 生活の中で頼ることのできる一つの選択肢として捉えていただけるような精神保健福祉士
- 経験を積み重ねても患者様の感じている不安や葛藤と向き合いクライアントとその環境に寄り添うソーシャルワーカー
- クライアントの価値観を尊重した気持ちに寄り添えるソーシャルワーカー
- クライアントの送りたい生活を見つけリカバリーに向けて共に歩んでいくソーシャルワーカー
- クライアントのそれぞれの悩みや不安の向き合い方を肯定し悩みや不安に伴走者として寄り添うことのできる精神保健福祉士
- 愛のある精神保健福祉士
- ありのままの当事者を受け止め当事者の思いや価値観を尊重できる精神保健福祉士
- みんなに頼られるソーシャルワーカー
- 悩みや不安がある時ない時でもあの人に話したいと思ってもらえるような精神保健福祉士
- 一緒に歩みたいと思っただけのソーシャルワーカー

3. 鹿児島市保健所（保健支援課）との協働による自殺対策普及啓発活動

本課程では、学生活動を中心に、令和4年度より鹿児島市保健所（保健支援課）との協働で自殺対策普及啓発活動を行っています。特に今年度はポスターデザイン案作りの段階から学生たちが関与しました。「知ってほしい人にメッセージをどう届けるか」「ストレートな言葉を用いず、短いフレーズでどうわかるようにするか」など様々なことを考えながら、また鹿児島市保健支援課のご指導もいただきながら工夫を凝らし、作成しています（右写真）。

学生たちは11月18日（土）、本学の大学祭に合わせてリーフレット等を鹿児島市保健支援課の方々と共に配布しました。



おわりに

本学の精神保健福祉士養成課程は、多くの皆様のご協力で運営されております。非常勤講師の先生方（その多くは本学のOB）、実習指導をはじめとした実習先の関係職種・当事者の皆様、本学教職員の皆様にあらためて感謝申し上げたいと思います。多くの学生が国家資格を取得していくことができるよう、これからも丁寧に学生を教育していきたいと思っています。鹿児島県内外の精神保健福祉の発展のために貢献できる人材を育成してまいりたいと思いますので、引き続き、本課程へのご協力とご指導をどうぞよろしくお願いいたします。



介護福祉士課程

岩崎 房子

はじめに

介護福祉士課程は、2001年に介護福祉コースとして発足し、今年度で22年が経過しました。2000年の介護保険施行の翌年に、本学で介護福祉士の養成がはじまったわけです。この間、約300名の課程履修学生が卒業し、現在、鹿児島県の介護・福祉現場や行政で活躍しています。本学の介護福祉士課程は、県内で唯一の4年制大学による養成課程で、介護福祉士と社会福祉士のダブル資格取得を目指している点に特徴があります。つまり、ソーシャルワークのできる介護福祉士、介護のできるソーシャルワーカーを養成し、介護・福祉を牽引していくリーダーとしての資質を有する学生の養成を目指しています。

現在、課程生は1年生～4年生まで約50名の学生が在籍しています。介護福祉士と社会福祉士のダブル資格取得を目指すとあって、カリキュラム的にはタイトですが、学業とサークル、アルバイト、ボランティア等を両立させながら頑張っています。

以下、介護福祉士課程の説明をしていきたいと思ひます。

<介護福祉士課程の学生の国家試験合格率は?!>*****

★介護福祉士国家試験合格率	100% (令和4年度)
	※4年間連続100%です! (全国合格率84.3%)
★社会福祉士国家試験合格率	60% (令和4年度)
	※全国合格率44.2%

<介護福祉士課程は実習が多くてキツイ?!>*****

	実習期間	介護実習	ソーシャルワーク実習
1年次	夏休み(8～9月)		
	春休み(2～3月)	○(2週間)	
2年次	夏休み(8～9月)	○(4週間)	
	春休み(2～3月)		○(1週間)
3年次	夏休み(8～9月)		○(5週間)
	春休み(2～3月)		
4年次	夏休み(8～9月)	○(5週間)	
	春休み(2～3月)		

「若い時の苦勞は買ってでもせよ」という日本のことわざがありますが、海外にも同じような言葉があります。英語なら「Heavy work in youth is quiet rest in old age. (若い時の

重労働は老いての平穩)」。中国語なら「宁吃少年苦 不受老来貧 (若い時の苦勞は老いてからできない)」。若い時に失敗したり、苦勞しておくことは成長に欠かせないという考えは万国共通のようです。

社会福祉学科の中では、一番実習が多いです！2つの国家資格を目指すのですから。介護福祉士課程を選択しなかった学生から「介護は大変そう」「夏休みがない」などの言葉をよく耳にしますが、高学年になってから、「介護を選択しておけばよかった」という声をよく耳にします。介護福祉士課程の選択は、1年次のオリエンテーション期間中ですので、入学前に考えておく必要があります。

このハードな環境の課程の学生たちを3名の教員と実習支援課の職員の方々がしっかりとサポートしていますのでご安心ください。介護実習で展開するアセスメント重視の介護過程(介護計画)の指導から履修指導、そして時には人生相談?!まで、幅広くサポート中です!

<卒業生の就職状況は?!>*****

介護福祉士課程の卒業生は、ほとんど鹿児島県内に就職しています。以下は、今年度の4年生の就職状況です。

公務員	5名	市役所：3名 町役場：1名 消防吏員：1名
福祉・介護	6名	高齢者領域：4名 障害者領域：2名
これから	1名	

2023.12月現在

その他、県職員、施設長、ケアマネジャーで活躍している卒業生、また、大学の教員として活躍している卒業生もいます。現場では、部長、課長、リーダーとして活躍しています。

求人については、介護福祉士と社会福祉士のダブル資格を取得した場合は91%の求人に対応できます(社会福祉士のみは66%の求人に対応できます)。

<在学生の様子は?!>*****

ほとんどの介護福祉士課程の学生は、学業とアルバイトを両立させています。加えて、サークルに入っている学生、ボランティアに参加している学生もおり、学生生活を楽しんでいます。

以下に、課程内イベントを紹介します!

- 1～4年生合同歓送迎会
- クリスマス会
- スポーツ大会
- 国家試験勉強会
- 大和村(奄美)フィールドワーク
- 大学近郊の施設見学



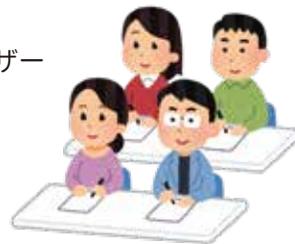
福祉施設ボランティア

鹿児島市長寿支援課「高齢者の安全対策委員会」学生アドバイザー

認知症サポーター養成講座受講

卒業生 ⇒ 実習中の介護過程指導

実習中のフォロー



【鹿児島市高齢者の安全対策委員会に参加】

私たちは、6月12日に開催された「鹿児島市高齢者の安全対策委員会」に学生オブザーバーとして参加させていただきました。委員会には、高齢者クラブの会長や高齢者に関連する団体の代表者をはじめ、町内会会長、訪問看護ステーションの管理者、行政の方々など約20名の参加がありました。この委員会は、鹿児島市が国際認証を取得している“セーフコミュニティ”の7つの取り組みの中の一つで、「高齢者の安全」に取り組む委員会です。

委員会では、今年度の推進計画およびセーフコミュニティの年間活動報告、課題の振り返りがなされました。今年度の主な取り組みは、①交通安全分野と連携し、交通安全教室等の取り組みと同時に実施することで取り組みの効果を高めること、②高齢者の不慮の事故による死亡原因で多い窒息へ対応するため、口腔機能低下予防教室を実施することです。

委員の方々の報告や意見交換を聞きながら、行政と地域住民の連携が取れていることや、地域の課題に早急に対応する仕組みができていくことを知ることができました。私たちからは「地域の学校や子どもたちと連携することで、さらに地域活動や地域力の向上につながるのではないかと提案させていただきました。

今回、委員会へ参加させていただき、地域住民と各団体や行政との協働体制や地域力の重要性について考える機会になりました。岩崎ゼミ4年：川崎凌大・木場未優・玉利元樹



【1年生クリスマス会】



※ 今年の一年生です。

【大和村フィールドワーク】

大和村フィールドワークは、国際大学と大和村（奄美大島）は、保健・福祉分野を中心に人材育成など幅広い分野で連携協定（地域振興事業）を結んでいます。その一環で、2016年からフィールドワークを行っています。

大和村の伝統的な生活文化や地域の特性を活かした地域作りなどの実際の学びから地域社会で活躍できる実践能力を養うことを目的としています。先進事例である大和村の地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みなどを学び、村内の子どもや高齢者、集落住民との交流を通して、地域の特性を生かした地域づくりの実際を学ぶほか、若者目線で村の魅力や課題を抽出し、地域資源の活用法などを村に提案しています。



↑大和村地域支え合い活動メンバーの皆さんとの情報交換会

【授業風景（医療的ケア）】



↑喀痰吸引と経管栄養法の練習風景（4年生）

おわりに

介護福祉士課程はハードですが、その分充実した大学生活を送ることができると思います。“明るく、楽しく、元気よく”をモットーに鹿児島島の医療・福祉を牽引していける人材育成に取り組んでいます。卒業後も一緒に学んでいきましょう！

まずはお腹いっぱいにして
元気になるんだ♪



教職課程

古賀 政文

教職課程は、特別支援学校教諭、高等学校教諭（福祉、公民）、中学校教諭（社会）の教育職員養成を目的とする課程です。本学では、それぞれの免許状取得のため、主に5月から6月に掛けて中学校・高等学校での教育実習を、9月から10月に掛けて特別支援学校での教育実習を行います。

今年度は、新型コロナウイルスの影響がなくなり、ほぼ計画どおり教育実習が実施され、学生の皆さんは教育実習を無事終えることができました。

今年度教育実習を行った学生の感想（教育実習報告会の資料から）や特別支援教育実習報告会での様子を紹介します。

中学校・高等学校

実習校から指導・指摘されたこと

- 教科書だけに頼らず、自分の経験談も交えたと生徒が興味を示す。
- 生徒指導→生徒支援へ、現代教育に合った形に変わっている。
- 教師側が説明しすぎず、生徒を動かすことを意識するように。
- 他の教師が授業以外でどのような仕事をしているのか、よく観察するように。
- 生徒を不安にさせないように、堂々と大きな声で授業に臨むように。
- 学校内だけでなく、学校外においても「教師」として見られることを意識してほしい。
- 発問は「簡単すぎず」かつ「難しすぎず」を意識してほしい。
- あくまで先生であるので、あまりにも生徒との距離が近くなならないような言葉遣いを。
- 時間配分、生徒が活動する場面づくり、授業のテンポについては気を付けるように。
- 授業におけるICTの積極的な活用や振り返りカードの作成。
- 生徒にとって難しいと感じるものを、易しくして教えられるように。
- 指導案はもちろんのこと、その他の報告書についても、作成は計画的に進めておけるように。
- 少なくとも、勤務時間が始まる20分前までには出勤し、準備を進めて臨めるように。
- 板書について（書き順・誤字・レイアウト）指導を受けた。
- 黒板に線を引くときは、定規を使用すること。指示する内容はパワポ等で示すこと。
- 写真や映像を見せることで、生徒の理解をより深くするための電子黒板の活用方法。
- 学校生活、授業中共通して、「生徒を否定しない」ことを学んだ。
- 授業の際には、自分の「軸」（やりたいこと・目標）をもち、ぶれないこと。
- 教科書「を」教えるのではない。教科書「で」教えること。
- 授業の中で一番したいことは何か、生徒に学ばせたいことは何か、この二点を軸に。
- 生徒との関係に距離感をもち、SNSでは絶対につながらないこと。
- 生徒を主人公にして、だれが見ても分かるような、構造的な板書を心がけること。
- 学び合いが停滞したときは、ケア（聴く→戻す）をする。

- 生徒への指示は、とにかく短く簡潔に。
- 生徒が自ら考える授業を展開していけることが第一。
- 50分の授業時間に対して、活動量が多すぎることを指摘された。
- 担当の先生からは「教科書の内容の網羅で終わってしまっている」と指導された。

アドバイス等

- 生徒は待っていても来ない。昼休み等に、こちらから話しかけてほしい。
- 大学での講義もあるが、実際の様子を見ておくことが必要。実習前に張り切りすぎないように。
- クラスによって生徒の実態も違うので、事前に先生とよく話し合っておいた方がよい。
- 担当教員との報告・連絡・相談をしっかりと、あいさつを元気よくすること。
- 早めに生徒となかよくなると授業もしやすい。積極的に働きかけてほしい。
- 生徒たちの姿から学ぶことだらけ。しっかりとたくさん話してなかよくなってほしい。
- 黒板に文字を書く練習をしておいた方がいい。
- いざ始まってしまえば、それまでの不安やプレッシャーも吹き飛んでしまう。楽しむ気持ちで。
- 教師には守秘義務がある。自分の一言が生徒を傷つけることもあるので注意が必要。
- 実習記録は、その日あったことをその日のうちに記録しておかないといけない。
- 自分の教科以外の授業参観も、できるだけしておくとう参考になることが多い。
- 早めに、実習校にはどのような機器がありどれをどのように使えるのか聞いておく。
- とくかく実習で最も大切なのは「事前準備」。準備を怠らず臨んでおけば、余裕も生まれる。
- 指導案の中で、細かく50分を刻んだ指導を考えておいた方がいい。
- そもそも、「うまくいかないのが当たり前」という精神で臨むのがよい。
- 授業準備をしっかりし、担当とのミーティングでの「メモ」は必須。
- 特別な支援の必要な生徒に対する指導について理解しておいた方がよい。
- 限られた期間、生徒とのコミュニケーションは、どんなにたいへんでも図るべき。
- 評価授業の範囲が分かり次第、少しずつでも指導案作成に取りかかること。
- とても充実した貴重な体験をすることができる。知識を蓄え、自信をもって臨んでほしい。
- 空き時間や土日の時間の使い次第で、実習中の心の余裕は全然違ってくる。
- 模擬授業の段階から真剣に取り組んでおくことで、実習でもうまくいくものだと感じる。
- 授業はもちろん大事だが、最も大事にしたいのは生徒とのふれあいだと感じた。
- 専門知識も大事だが、先生方や生徒とのコミュニケーションを大事にしてほしい。
- たくさんの先生の授業を参観しながら、自分の授業との比較を行うとよい。
- 実習前から早めに生活リズムを作り、体調を整えて臨んでほしい。
- 実習を終えて、改めて「1を教えるには10の情報量が必要である」ことを実感している。
- たいへんな期間であるが、教師への意欲も高まる。出会いを楽しみに精一杯取り組んでほしい。
- 教育現場を知る貴重な機会である。受身にならず積極的に行動してほしい。
- PowerPointばかりを使うのではなく、「板書」の練習を積んで臨んでほしい。

特別支援学校

成 果

- 担当クラスの生徒だけではなく、他のクラスの生徒とも多く関わることができた。
- 生徒や教職員等とのかかわりを通して、座学では決して学ぶことができないことを学ぶことができた。
- 評価授業でメダルを用意したことで普段コミュニケーションを取るということが難しかった生徒にもアクションを起こすことができた。子どもたちの笑顔を見ることができた。
- 生徒の「できた」を増やすためには、実態把握が一番必要で少し工夫することでも可能性を広げることができるということを学んだ。
- 短い期間で生徒の能力をある程度把握し、研究授業に生かすことができた。
- 今回の実習では生徒一人一人との向き合い方や関り方については、休み時間や昼休みを通して積極的にコミュニケーションを取ることができたのではないかと考える。
- 二週間という短い期間であったが毎日が充実しており、特別支援教育というものを現場で、肌で感じて多くのことを学ぶことができたことである。

課 題

- 生徒の実態を踏まえ、ペアの先生と連携して臨機応変に対応していくこと。
- 生徒が理解しやすくするための伝え方。
- 挨拶だけで終わった生徒もいたため、より多くの生徒とかかわることができなかった。
- 生徒に対しての反応、リアクションが上手くできなかった。生徒に注意をすることが難しかった。また、ダメなことをなぜダメなのか説明できる、わかりやすく伝えることができるように、多くの言葉や知識が必要だと感じた。
- 授業の進め方においては、指示が具体的でなかったことや導入での説明が生徒に伝わっていないことがありどのようにして全員に伝えるかを今後学ぶ必要があると思った。
- 無意識にこれは分かるだろうできるだろうと思いついで、児童にとって難しい言葉や抽象的な言葉を使うことが多かった。

アドバイス等

- 中学校の実習とは違い、基本的にずっと授業に参加しているので空き時間はありません。隙間時間に日誌に書くことをまとめ、放課後はなるべく授業研究にあててほしい。
- 実習期間中の体調管理には特に気を付けることが大切。実習日誌は、生徒が帰ってから退庁するまでの間、もしくは家に帰ってすぐ書き、できるだけ早めに寝る！
- 指導教諭の先生に特別支援学校の先生には「自分のキャラ」を持っておくことが必要だと助言があった。
- 短い期間だったがとても充実した二週間になった。中学校の実習とは違い、担任の先生も二人いるため、分からないことをすぐに聞ける環境だった。担当クラスだけでなくほかの学級の先生や生徒と関わることも多かったため、多くの学びを得ることができた。

特別支援教育実習報告会から

- 令和5年12月15日(金) 13:10～16:10 528教室
- 主な内容(Q & Aから一部抜粋)

特別支援教育実習報告について

- ・ コミュニケーションを取る上で気を付けたことは何か。
 - ➔ 自己紹介を分かりやすくすることでコミュニケーションが取りやすくなる。
毎日、一人一人と挨拶をする。
- ・ 自分を知ってもらうために工夫したことは何か。
 - ➔ 自己紹介フリップ(名前、好きな食べ物等)の作成、話せるきっかけ(児童生徒との共通点)を探す。
- ・ 発語のない児童生徒への休み時間の関わり方はどうしたか。
 - ➔ 感覚遊びなどその児童生徒がしていることを一緒にした。

教育実習日誌について

- ・ 実習記録を書く上で気を付けた点は何か。
 - ➔ メモを取るようしていた。
1日の中で心に残ったことを書いた。
- ・ 気づきや学んだことを書く際の観点は何か。
 - ➔ 特に印象に残ったこと、生徒中心、教師の立場、生徒の立場で教師の発問や教材・教具等で工夫してほしいこと。(一人一人異なる。)



指導案について

- ・ 導入や展開で配慮したことは何か。
 - ➔ 導入では、一連の流れを伝えることを大切にした。
前時で使用した教材・教具を導入で使い、振り返りが具体的にできるようにした。
手順を板書し、何をしているのか、次何をするのかを分かりやすく示した。
目標や内容を口頭だけでなく、視覚的に伝え、分かりやすいようにした。
作業が上手にできたかどうかを色分けし、シールを貼る活動を取り入れることで、生徒の丁寧に作業をしようとする意欲を引き出し、興味をもって活動できた。
- ・ 児童生徒の実態把握は自分で行ったのか、それとも教師等から情報を得たのか。
 - ➔ ふだんの様子も含め、自分で分かる部分は記入し、分からない部分は教師から情報を得た。
保護者にアンケートを行った。
全体目標を考え、それを基に、教師と一緒に確認し実態把握をした。
実際に関わって、気付いた点も記入した。
掲示物等を参考に児童生徒の実態を確認した。
仮に捉えたものを記入し、教師と確認しながら訂正した。

【活動報告】

精神障害者と市民の交流の機会づくり ～リースづくりを通じた相互理解と社会参加の促進～

鹿児島国際大学 福祉社会学部 社会福祉学科
茶屋道ゼミ3年 幾留・欽崎・松森・坂元・矢野・日高

1、概要と目的

筆者らは、特色のあるボランティア活動として鹿児島市精神保健福祉交流センター主催の「はーと・まるしえ 2023」でリースづくりのブース出展を行った。

鹿児島市精神保健福祉交流センター（通称はーと・ぱーく）とは、精神障害について正しい知識を理解するための講座や精神障がい者の生活の幅を広げ豊かにするための講座などのほか、市民が精神保健福祉に関して考える機会となるための交流イベントを開催している。また、専門の相談員がこころの健康に関する相談に応じることが可能な施設となっている。主に活動としては、相談事業や交流事業・情報提供事業を行っている。

ワークショップでは、イベント当日（10月21日土曜日）の季節感を考慮しハロウィンを意識したリースづくり体験を企画した。

リースづくりでは、精神障害者を中心に大人から子どもまで老若男女問わず、リースづくりに興味のある方を対象とした。リースづくりは、特別な知識もスキルも不要なため、誰でも気軽に取り組めるのではないかと考え、リースづくりを通してものづくりの楽しさや自己表現の楽しさを体験し、自分の得意なことや好きなことを発見するきっかけにしてほしいとの思いを込めた。

2、活動スケジュールと活動内容

①（5/18）鹿児島市精神保健福祉交流センター（通称はーと・ぱーく）との打ち合わせ

近年、コロナ禍の影響によって「はーと・まるしえ」自体のイベント開催が不可能だった。

また、例年は広報紙作成・取材で茶屋道ゼミと共同企画で活動していたが、今年は茶屋道ゼミでブースを借りてワークショップ運営等を行うことが決定した。

②（5/23.5/26）ブース運営についての話し合い（ワークショップ内容の検討）

筆者らで老若男女誰でも簡単に楽しむことができるものでありながら、デザインや装飾で自分らしさが表現でき、リース土台に飾りをつけるだけで誰でも簡単に楽しむことができるという点からリースづくりの体験型ワークショップに決定した。

③（5/29、30、6/28、7/11）リースづくり（試作）

初めに100円ショップで購入したリース土台と飾りをグルーガンで試作した。しかし、リース土台が一つ100円であることから来場者の人数を考えるとコストがかかるため、紙紐からリース土台を作ることにした。飾りも種類や自然の物を利用したいとの意見が出た。次にリース土台を紙紐に変更し本学の上田先生のご指導の下、リースの飾りや製作方法の基本、ブースの配置や当日のリースづくりのサポートの仕方・注意点を学ぶことができた。

④ (6/11、16) ブース運営(ワークショップ内容) 企画案作成

当日のブースの配置をゼミで話し合った。体験型ワークショップであるため、参加者があまり行動せずリースの飾りを取りに行きやすいよう作業効率を視野に入れ、ブースの配置を考えた。

⑤ (6/ 6、8) 鹿児島市精神保健福祉交流センター(通称ははーと・ぱーく)へのプレゼン(zoom)

パワーポイントでリースづくりのワークショップの企画案について、はーと・ぱーくの職員にプレゼンを行った。内容としては体験型のワークショップということもあり、作成の過程や時間、個数や材料についても筆者らで試作を行い、現実的で安全に実施可能であること、一緒に制作し完成形を披露し合うことで障害についての理解を深め、地域社会でのネットワークを広げることで地域の中で「一緒に笑顔になれる場所づくり」に貢献できることをプレゼンした。

⑥ (5/27、6/23、30、7/18、21、27、10/2、5、6、9、11、12、13)

リースづくりに必要な材料(ベース・飾り類・文房具等)の調達・購入・制作
文房具やベース飾りを購入し、飾りは大学内の自然の物を調達した。(紫陽花・ドライフラワー、どんぐり、松ぼっくり等)また、子ども向けに紙粘土の飾りも制作した。
材料数については、リース土台や過去のはーと・まるしえの来場者数から予想し、ゼミ活動の中で何度も話し合いを行い、「追加したい」との意見が出た時に随時購入をした。

⑦ (6/17、7/ 7、9/24、28) 広報準備(チラシデザイン・SNSなど)と協力

チラシのデザインは文字のサンプルとラフデザインを決め、はーと・ぱーくの職員と連携し、電話やLINE上でチラシのデザインについて意見を出し合い完成させた。
次にゼミでもイベントの広報を行うため、ゼミのInstagramを立ち上げた。Instagramではイベント開催に向けた準備の様子やリースづくりのお手本等を投稿し、SNS上で広報した。また、大学内でも許可をもらいチラシを掲示板に掲載・配布し本学の学生にも広報を行った。家族や友人、サークルなどでの宣伝をチラシ配布やゼミ生個人のSNSを通して広報活動にも取り組んだ。

⑧ (9/28、29) リース土台準備

紙紐リースの土台を小さいリース50個以上、大きいリース13個として作成した。しかし、問題点としてリース土台が柔らかく制作しづらかった。よって、リースの強度を上げるために水溶きボンドを塗って補強した。

⑨ (10/20) 事前運搬・事前設営

はーと・ぱーくさんのご厚意で本来のブース案より広い場所を提供してもらえた。よって、スペースが変更になったため実際に配置しながらブースを完成させた。その際にブース案の変更で気を付けたことは、延長コードに躓いて怪我をしないように配置したことと来場者が実際の体験コーナーを入口から見やすいように配置したことだ。

⑩ (10/21) はーと・まるしえにおけるワークショップ運営

イベント当日は約80名近くの方がリースづくりに参加してくださった。親子連れから高齢者まで幅広い年代の方がワークショップを楽しんでくださり、学生と参加者また参加

者同士の交流が見られ企画の目的である、地域で「一緒に笑顔になれる場所づくり」を提供することができた。リースづくりのブースに予想を上回る参加者が来てくださり、対応に慌てる場面もあったが、ゼミ生が作業を分担しながら取り組むことが出来た。

⑩ゼミ内での振り返り

活動の企画から準備、当日の運営状況を振り返り、反省や学べたことをゼミ生同士で振り返りを行った。また、イベントでのリースづくりが好評だったため、はーと・ぱーくの職員のご厚意によりリースづくり講座を3月に開催する話を依頼された。

3、活動を通した学び

①全体を通して身に付けた力(社会人基礎力：自主性)

筆者らが身に付けた力は運営側や参加者も楽しめるワークショップを企画する力である。

イベントの準備段階、イベント当日は筆者らがそれぞれ役割を持ち、自主的に行動することができた。そして広報、ターゲティングの技術を用い、来場者に筆者らの活動やイベントについて広報することができた。また、参加者や職員の方、他ブースの方々と交流する機会を得て、学校外の地域や社会の中のコミュニティで交流していくことができた。

体験して感じたことは、精神障害を抱える方の中には落ち着きがなかったり、集中力が低い方もいたため、症状を理解したうえでリースづくりを楽しんで参加者自身の力で取り組めるように相手にあったペースで対応する力の重要性が理解できた。

②はーと・ぱーくスタッフとのやりとりで身に付けた力

(社会人基礎力：計画の立案、計画の実践、コミュニケーション力)

企画段階では施設側と情報を共有・連携しイベント当日に間に合うよう、逆算しながら計画を立てることができた。また、計画立案の際にトラブルを予測する危機回避能力の重要性や対処する力も必要であると学ぶことができた。さらに、計画立案の際に配慮しなくてはならない点について意見を出し合うことができた。そのために、相手に自分の意見を適切に伝えるためにどのような方法があるか考える力を身に付けるよう努力した。

③はーと・ぱーくでのイベント企画・運営を通じて新たに感じた意義について

(社会人基礎力：地域志向、地域理解)

筆者らが鹿児島市精神保健福祉交流センターの役割を把握できていなかった。そのため、市民に対しての普及啓発がうまくできるか心配だった。しかし、イベントを通して鹿児島市精神保健福祉交流センターはこころの健康について学ぶことができ、誰でも関係なく気軽に行ける居場所であることを理解する良いきっかけになった。また、市民同士が交流するきっかけをつくれる場所でもあったと感じた。

④ゼミ生自身の“得意”を活かすことで成し遂げたこと

(社会人基礎力：協調性、コミュニケーション力、感情のコントロール)

絵やデザインを描くことや飾りの作成等、手先が器用な生徒を中心に行動できた。アイディアの発想・イベントの広報紙やブースのロゴ制作、看板を作成することによって筆者らで考えた企画目的の再現ができた。また、人と交流することが得意な生徒はイベントの参加者と積極的に交流ができた。そのなかで、精神障害を受け入れ思いやりの心を持ち対応することができた。リースづくりを通して、精神障がい者への理解や筆者らのコミュニ

ケーション能力向上ができた。さらに、ゼミの Instagram 立ち上げや広報紙を作成することでより多くの人にイベントや活動を発信した。広報は一目で分かりやすいものになるように工夫し、人に分かりやすく伝える力を向上させることができた。

⑤目的の達成度

目的において鹿児島市では一と・ぱーくの役割の普及啓発をは一と・まるしえを利用して行うことができた。また、精神障がい者の方々とのリースづくり体験機会を通して、精神障がい者についての誤った理解の改善につながる活動になったのではないかと感じた。

よって、今回のイベント運営を通して、精神障がい者が市民と同じ環境で生活していくためには障害についての正しい理解が大切だと実感することができた。そのために、今後も障害について記載されているパンフレット配布や SNS (Instagram など) を活用し、普及啓発活動をしていきたい。



【当日の様子】



【受付の様子】



【リース素材採取】



【広報チラシ】

【研究報告】

スーパービジョンへのアクセス状況と課題を 把握するためのインタビュー調査

鹿児島国際大学大学院福祉社会学研究科
博士後期課程 3年 村尾 直也

はじめに

これまで日本では、スーパービジョンの意義や機能について多くの報告がされてきた。それらはソーシャルワーカーがスーパービジョンについて理解することに一定の貢献をしたと考えられる。だが実際には医療福祉現場でスーパービジョンの意義やその方法が曖昧にしか理解されず、医療福祉現場に定着するに至っていない。実際にスーパーバイザーに指名された者は、何をすればいいのか、また何をやる必要があるのかがわからず、スーパービジョンとは異なるものを実践することになりかねない。例えばスーパービジョンという名目で行っていることが、実質的にはコンサルテーション、事例研究会、さらには単なる日常業務での困りごとの愚痴をこぼす場がとして実施されている可能性が多くの文献で示唆されている(塩村 2000；中田 2008；福山他 1997)。そこで本調査では、医療福祉現場におけるソーシャルワーカーのスーパービジョンへのアクセス状況と課題を把握し、スーパービジョンがジレンマの解消、軽減につながっているのか、スーパービジョンに感じる課題についてインタビュー調査を通して明らかにすることを目的とする。

1. 調査対象及び方法

本調査は医療福祉現場におけるソーシャルワーカー 10 名（医療機関 4 名、介護老人保健施設 1 名、障害児者分野 3 名、児童分野 2 名）を対象とした。選定方法は機縁法を用い、調査対象者に対し調査協力とともに可能であれば新たに本研究の条件に合った対象者の紹介を依頼し、調査対象者を選定した。

データ分析は、質的データ分析法（佐藤 2008）による分析手順を用いた。インタビュー調査は半構造化面接にて実施し、調査対象者と協議の上、訪問調査もしくは ZOOM のいずれかで行った。インタビューの内容は調査対象者から同意を得たうえで ZOOM の動画録画や IC レコーダーに録音し、その記録に基づいて逐語録を作成した。意味が損なわれない程度に記述を区切って抜き出し、抜き出したものにそれぞれ内容を説明したコードをつけた。それらを比較検討しながら、いくつかのコードを言い表す抽象度の高いカテゴリを生成した。

2. 調査対象者の概要

対象者の現在の勤務先（職場内）のスーパービジョン体制は3名が「ある」と答えており、具体的には、Bは「入職してすぐに上の人たちが辞めることがあり、一時期一人部署となった」、そのため自身は職場内でのスーパービジョンを受けたことはないが「法人内の別のソーシャルワーカーと話して、新しくスーパービジョンする体制づくりを行った」とし、「年に2～3人が事例を発表する事例検討会」「月に1回のリフレクティングを用いた、自由に抱えているケースの悩みを吐き出せる場」を作っていた。Hは「3カ月に1回のグループスーパービジョン」、Iは「年1～2回の個別スーパービジョン（セッション）と年4回のグループスーパービジョン、週1回のピアスーパービジョン」の体制があった。H、Iどちらも業務時間内にスーパービジョンのための時間を1時間から1時間半程度確保して実施していた。過去の勤務先（職場内）のスーパービジョン体制では1名が「ある」と答えており、具体的には、Aは「週1回上司に面接を見てもらい、1週間の間に面接であがった課題を1個ずつクリアしていき次の時に報告をしていた」。

次に外部のスーパービジョンの経験について2名が「ある」と答えており、具体的にはBは「職能団体の事例検討会で発表するにあたって自分の事例をスーパーバイザーに見てもらい、事例を検討してから発表するという状況」で「スーパーバイザーと2～3回程度会って事例について検討を行った」。Cはこれまで「MSW協会のスーパービジョン」「全国ソーシャルワーカー協会のスーパービジョン」と、「認定社会福祉士を目指すための、県社会福祉士会が行っているスーパービジョン」を受けてきた。認定社会福祉士のためのスーパービジョンでは「年6回の契約期間を結んで、計画を立て1時間程度のセッションを受ける」「スーパーバイザーは自分で選び申し込むことができる」となっており、現在3年目で1年ずつ異なるスーパーバイザーと契約しスーパービジョンを受けてきた。

3. 分析内容

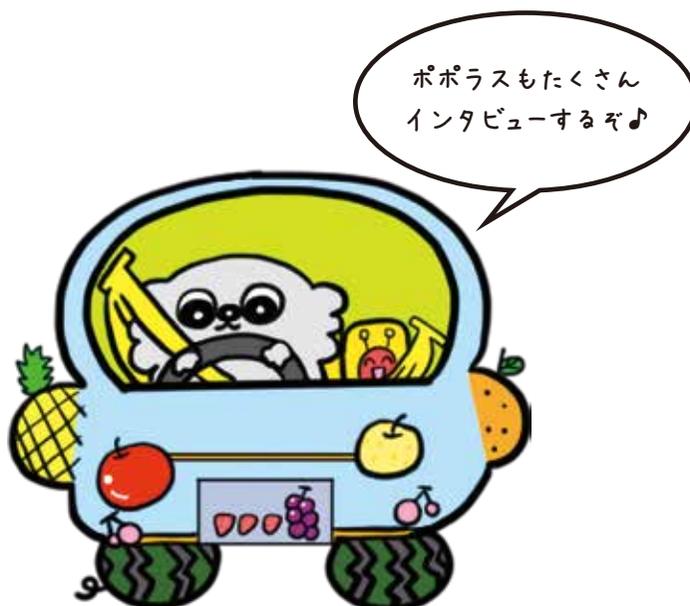
上記の対象者10名へのインタビュー内容について、本研究の目的から①ジレンマと葛藤の軽減、解消、②スーパービジョンの課題の2点の視点から分析を行った。まずジレンマについては10名全員が業務の中で様々なジレンマに陥ったり葛藤を抱えていた。しかしジレンマと葛藤の軽減と解消についてスーパービジョンと関連して回答が得られたのは1名のみであった。スーパービジョンに「新たな気づき」や「異なる視点」を求める言葉と、業務の中でジレンマと葛藤に常々向き合っているという言葉が多くある一方で、スーパービジョンを活用してジレンマの軽減や解消を図るという言葉は質問者が促しても見られなかった。これはジレンマを抱えた際に適切にスーパービジョンを受けられる体制がないためであり、ジレンマの軽減や解消にスーパービジョンを活用しようと考えるほど身近なものとなっていないためだと考えられる。次に②スーパービジョンの課題について5点に整理することができた。まず対象者がスーパーバイザーの経験がなくスーパーバイザーという立場で職場内での職員の育成に携わっている状況から、スーパーバイザーの年齢や経験、性別など人材育成

に関して【スーパーバイザーの確保と育成、スーパーバイザーの支援】を求めている。またスーパービジョンの到達地点や形など輪郭が明確になっていないため【スーパービジョンの明確化、必要性の理解】について誰もが納得できるあり方を模索し、スーパービジョンが必要とされるものとなることも課題として挙げられた。この必要性については【職業観や業務への向き合い方の違い】によって、スーパービジョンを必要ないし不要と考える職員をどのように職場内で育てるのかにも繋がっていると考える。そして医療福祉現場における【人的時間的な不足】から自己研鑽まで時間が取れない状況や研修やスーパービジョンを業務内に受けることへの【職場環境と職場からの理解】も課題として挙げられた。

4. 考 察

前述したように、スーパービジョンの重要性はこれまでも述べられているが、医療福祉現場に定着していない事実もある。また本調査で明らかになった課題解決のためにも、スーパービジョンがより身近なものとして実践される必要があると考える。スーパービジョンがより身近なものとして定着することで、スーパーバイザーがジレンマに陥り葛藤を抱えた際に、成長につなげるためのスーパービジョンをすぐに受けられる体制を作ることができ、スーパーバイザーの自己研鑽にもつながるのではないだろうか。

今後は本調査の知見を基に身近なスーパービジョンのあり方や実践方法について整理、検討するとともに、段階的なスーパービジョンの実践方法について検討することを研究課題としたい。



鹿児島国際大学社会福祉学会会則

【総 則】

第1条 本会は、鹿児島国際大学社会福祉学会と称し、本会の事務所を鹿児島国際大学福祉社会学部社会福祉学科に置く。

第2条 本会は、学術研究を推進し、会員相互の学問的交流を促進するとともに、地域社会の文化的発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
(ア) 会報ならびに機関紙の編集・発行
(イ) 研究会・講演会等の開催
(ウ) その他、本会の目的を達成するために必要と認められる事業

【組 織】

第4条 1. 本会は、福祉社会学部社会福祉学科並びに大学院福祉社会学研究科に在籍する学生および両科の専任教員をもって会員とする。
2. 準会員については、別に定める。

第5条 1. 本会に次の機関を置く。
(1) 会長
(2) 総会
(3) 運営委員会
(4) 監査委員
2. 会長は、社会福祉学科長とする。
3. 運営委員(教員4名、学生8名以上)および監査委員(教員2名、学生2名)は、社会福祉学科で選出し、総会の承認を得るものとする。
4. 前項の各位委員の任期は、教員については2年、学生委員については1年とする。ただし、再任は妨げないものとする。

【機 関】

第6条 1. 会長は、本会を代表する。
2. 会長は、年1回の定期総会を招集しなければならない。
3. 会長は、運営委員会の議決に基づいて臨時総会を招集することができる。

第7条 総会は、本会の最高議決機関である。

第8条 1. 運営委員会は、総会の承認により、学会の運営にあたる。
2. 運営委員会は、委員長(教員)と副委員長(学生)の各1名を互選する。
(1) 運営委員長は、運営委員会を代表し、定期およびに臨時に運営委員会を招集する。
(2) 運営委員会は、そのもとに必要に応じて委員会を置くことができる。
3. 運営委員会は、教員委員および学生委員のそれぞれ過半数の出席によって成立する。

4. 運営委員会は、次の事項を審議決定しなければならない。
 - (1) 年間事業計画
 - (2) 予算案および決算書
 - (3) 会則の改正ならびに諸規定承認・改廃
 - (4) その他必要な事項
5. 運営委員会の議決は、出席した教員委員および学生委員のそれぞれの過半数の賛成で決する。

[財 政]

第9条 教員会員の会費は、年額2,500円とし、年度初めに納入する。学生会員の会費は、年額2,500円とし、入学時に一括納入する。

第10条 1. 本会の経費は、会費・補助金・寄付金でまかなう。
2. 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

第11条 会費の徴収、保管および支払いについては、大学事務局に委任するものとする。

第12条 運営委員会は、毎年会計年度終了後2ヶ月以内に決算を行い、監査委員の監査を受けたいえで総会に報告し、その承認を得なければならない。

[改廃手続]

第13条 本会則の改廃は、運営委員が発議し、総会の決議を経なければならない。

附則

1. この会則は、昭和57年4月1日から施行する。
2. この会則は、平成13年7月27日に改正し、施行する。
3. この会則は、平成15年7月4日に改正し、施行する。
4. この会則は、平成18年4月1日に改正し、施行する。
5. この会則は、平成20年4月1日に改正し、施行する。

2022 (令和4年)年度 鹿児島国際大学 社会福祉学会 収支決算報告

摘 要		金 額	予 算
前年度繰越金		2,876,345	2,876,345
収 入	会 費	1,107,500	1,017,529
	参加費	0	
	雑収入	34	
	寄付金	0	
収 入 計		1,107,534	3,893,874
支 出	『演習論文要旨集』発行費	0	0
	会議費	0	10,000
	自主研究助成費	20,730	150,000
	新入生歓迎行事費	0	0
	卒業パーティー開催費	0	0
	『ゆうかり』発行費	472,890	472,890
	講演会開催費	0	0
	事務費	0	10,000
	通信費	1,480	10,000
	特別事業費	0	0
	学生アルバイト料	0	0
	会 費	40,000	10,000
支 出 計		535,100	662,890
当年度未残高		3,448,779	

編集後記

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

みなさんが本学に入学した令和2年度は、新型コロナウイルスのパンデミックが発生した年でもありました。慣れない大学生活に加え、この先どうなるのか、不安な毎日を過ごしたことも記憶に新しいと思います。コロナ感染拡大は、私たちの生活にさまざまな影響を与えました。なかでも大きく影響を受けたものとして、人々の働き方があげられます。コロナ禍においては、テレワークに代表されるような、ICT(情報通信技術)を駆使した働き方が広く浸透しました。しかし、コロナ禍においても、医療・福祉・介護の専門職はエッセンシャルワーカーとして、人々の生活を力づくで支えてきました。

今後10～20年で日本の労働人口の49%の人が就いている仕事がAIに代替できるといった結果が出されています。AIは業務の効率化をサポートするツールとして活用されつつも、教育、福祉・介護分野は、人間の温かさや配慮、思いやりが必要な分野です。高齢者や障害者への介護や支援では、人と直接かかわるサービスを提供しているため、人間の手でのケアが必要です。また、メンタルケアに関しては、特に人間同士のコミュニケーションが欠かせないため、AIが進化しても生き残る可能性が高い職種といわれています。昨今、介護分野においては、介護業務支援や見守り業務でのAI化や介護現場でのロボット活用が推進されていますが、人間の温もりあるケアとともに、AIによる効率化とが共存する必要がある分野であると思います。

みなさんは、これからの激変する社会とともに、教育、福祉・介護分野を牽引していく人たちです。社会福祉学科、福祉社会学研究科を巣立ち、それぞれの場所で、それぞれの分野でご活躍されることを大いに期待しております。

さて、ゆうかりの編集にあたっては、実に多くの方々のご協力をいただきました。書面をお借りしてお礼申し上げます。特に今年のゆうかり担当の学生委員のみなさんには、時間割が過密な学生さんが多く、一堂に集まる時間の確保が難しく、一部の学生委員の方に負担がかかってしまいました。そんな状況下にもかかわらずご協力をいただき感謝いたします。ゆうかり企画にあたっては、少しずつではありますが、学生主体の手づくりの学会誌になるよう、また、在校生や高校生にも読みやすい内容にしていきたいと考えています。今後とも、学生委員のみなさまをはじめ学会員のみなさまのご協力をお願いする次第です。(F.I)



2023(令和5)年度 鹿児島国際大学社会福祉学会 運営委員

社会福祉学会会長 林 岳宏

教員運営委員 茶屋道 拓哉(運営委員長) 古賀 政文 永富 大輔 岩崎 房子

学生運営委員

<講演会> 1年: 仙田 沙也加 山之口 紗世 西竹 大悟 岩下 歩夢 内 智花
古園 愛香 石川 澄怜

3年: 日高 麻央 幾留 美輝 上野 実玖 小野 愛海 宮脇 恵那

<ゆかり> 1年: 前田 月華 前畑 音弥 新田 理音 揚野 華子 右田 希翔

3年: 甲斐 廉生 福元 幸希 木村 彩香 吉田 有紀美 中島 未愛 秋元 莉和

<自主研究助成> 3年: 川崎 汐華 池田 蒼生 神里 天音

鹿児島国際大学社会福祉学会誌

ゆかり 第23号

発行 2024年3月19日

編集 鹿児島国際大学社会福祉学会

住所 〒891-0197 鹿児島市坂之上8-34-1
Tel 099(261)3211(代)

印刷・製本 有限会社 広和印刷
Tel 099(222)3522



本誌ロゴ、ポポラスイラストに関しては、村上絢音さん、村上瑤子さんからのご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

